

公立大学法人公立小松大学 学長業績評価 評価書

1. 評価

評定	評価
A	優れた業績である

2. 総評

- 開学から2年半、第1期中期目標・中期計画の達成に向けて、教育、研究、国際交流、地域貢献、業務運営、いずれの施策もバランスよく着実に実施され、大学運営が順調にスタートしているものと高く評価できる。特に、令和2年度の新型コロナウイルス対策については、危機管理体制を適切に学内に敷き、ハード・ソフト両面において柔軟な対応を実施し、リーダーシップを発揮している。
- 数値指標や具体的成果については、全体の数値だけでなく、最大・最小値、学部別、個人別など、細かな分析・把握を行い、FD活動や業務改善につなげていく必要がある。
- 令和2年度当初から、COVID-19発生に対する危機管理において、ハード、ソフト両面において柔軟に対応されたことは評価できる。

(1) 教育

- 入試については、これまで、高い志願倍率を維持し、入学者も定員を超えている点が評価できる。今後は、数値のより細かな分析とそれに基づいた対応・対策を求めたい。
- 学生の授業評価についても、入試同様、高い満足度を得ていることは評価できるが、個別評価と分析に基づくFD活動の推進を求めたい。
- 共通教育の中で、地域の歴史や文化への理解を高める教育がなされていることは、評価できる。
- 令和元年度の「きずな合宿」の取組みは、学生の立場に立った支援策として評価できる。

(2) 研究

- 研究発表数(学会報告、論文数、著書)や、科学研究費助成事業、その他外部資金採択件数が、いずれも達成年度前ではあるが、中期目標の目標値を上回っている点は評価できる。
- 科研費獲得に向けた教員研修や、研究補助事業の創設など、研究力強化に向けた取り組

みが推進されている。今後、地域企業との共同研究など、より具体的成果となって現れるよう、さらなる取り組みを期待したい。

(3) 国際交流

- 大学間、部局間交流協定が順調に増加し、交換留学など実質的交流も始められている点が評価できる。
- シリコンバレーオフィスの設置やそれを活用した産学合同研修は、独自の取り組みとして内外に本学をPRするきっかけとなり、大きな成果として評価できる。
- 新型コロナウイルスの影響により、海外との行き来が難しい状況ではあるが、大学における国際交流の推進が、小松市が掲げる「国際都市こまつ」の実現につながることを期待したい。

(4) 地域連携

- 小松市や地元との連携による学生教育を中心とする諸活動が活発に行われている点を高く評価する。特に、「お旅まつり」や「どどんまつり」など、地域行事への積極的な参加は、学生たちのエネルギーがまさに元気をもたらしている。
- 「こまつ市民大学」や「ものづくり人材スキルアッププログラム」などの講座開催、「市民公開フォーラム」など、市民の学びの意欲に応える取り組みは、高く評価でき、今後も推進を期待したい。

(5) 業務運営

- 地域・市民からの要請に応じ、学長自らが講演するなど、大学の状況等を積極的に発信してきたことは、大学の教育研究活動に対する市民の理解を深める貢献的な取り組みとして、高く評価できる。
- LMS(Learning Management System)を活用した教育活動管理や、サービス提供、Webを活用した教職員管理サービス提供など、ICT活用による業務改善の取り組みを求めたい。